

野澤如洋 （如洋） 畫家。元治二年四月三日陸奥國弘前生れ、昭和十一年六月十一日歿（八六五—一九三七）。本名三千治、幼名太郎。別號三峰、不怠、交影、仙巖、双茅庵、古廷、波古、花石、補山、馬骨、香夢、野澤三千司。弘前藩士一戸忠藏の五男、明治十二年野澤徳胤の養子となる。九年（二上）仙年（就）畫技を學ぶ。十四年青森縣中津輕郡八公立中學校第四年前期卒業。十八年青森縣巡查となる、翌年同僚の争論に仲裁に入り、逆に暴行して免職。その後、畫道修業に各地を遍歴して東京に至る。爾來展覽會等の出品、入賞多數。二十七年渡清、天津に一泊千枚描き（千畫會）を舉行、畫名を上げた。大正七年大阪で千馬會を開き、翌年二月より十八カ月間歐米旅行。武勇談等逸話多し。中山忠直編『如洋畫集』（第一卷・昭和十年、第二卷・十一年刊）、「歐米漫遊日記」を含む遺稿集『双茅庵雜記』（昭和十二年六月十一日如洋傳記資料刊行會）の他、薄田斬雲編『歐俠野澤如洋』（昭和五年八月十日青森・如洋會）がある。

